

脚の健康は全身の健康を支えます。

Vol. 43

あ し 科
ASHiKA
Presented by Sato vein surgery clinic

リンパ浮腫にも効果が期待できる。

医療用接着剤を使う
「グルー治療」って
どんなもの？



リンパ浮腫にも効果的。 医療用接着剤を使う 「グルー治療」って どんなもの？

令和元年に保険適用となった新しい治療法が、医療用接着剤を使った「グルー治療」で、今後、下肢静脈瘤の治療法として注目されていくことが予想されます。

グルー治療とは、患部の血管内に接着剤を注入して固めるもので、従来は肝細胞ガンなどに、当院では血管芽腫の治療に用いられてきたものです。

熱を照射して患部の血管を消滅させるレーザー治療に比べ、薬品を注入するだけなので痛みが少ないことが特徴です。

しかし、接着剤で血管を固める治療には、症状によって適応する場合としない場合とがあり、すべての患者さんにおすすめできるというわけではありません。

今回は、「グルー治療」について、従来のレーザー治療とも比べながら解説していきます。



1

グルー治療のメリット

グルー治療は血管内に接着剤を注入するものなので、レーザーを照射して血管を焼くのに比べて痛みが少ないといえます。

また、レーザー治療を行うと血管周囲の神経にも影響を与えてしまい、術後にしびれが出ることがありますが、グルー治療ではそのような神経の症状が出にくいことも、患者さんにとってのメリットでしょう。

レーザー治療では術後の一定期間、弾性ストッキングを履いて圧迫することが必要ですが、グルー治療にはそれがないため、患者さんの負担が軽減されます。

さらに麻酔をあまり使わずに済むなど、よい点もたくさんあるのです。

また、「異所性動静脈瘻」と呼ばれる表皮の近くの細い血管にある小さな抜け道血管は、著しくむくんだ足だとレーザーでは対応できないことから、これまでは表面から圧迫して血流を抑えるに留めることがほとんどでした。しかし、グルー治療なら、このような血管についても対応できる可能性があります。蜂窩織炎やリンパ浮腫の原因にもなる異所性動静脈瘻については、後で詳しくお話ししましょう。

2

グルー治療に適応するのは？

このように、よいことばかりに思えるグルー治療ですが、実際に適応するケースはさほど多くありません。

グルー治療では接着剤を注入して血管を固めますが、固まった血管は吸収されずに体に残ったままになります。したがって、足の表面がデコボコしている静脈瘤の場合、表皮近くの血管の治療には向きません。また、接着剤を使って固めるため、残された血管は固くて曲がりません。そのため膝など関節部分の血管は治療できないのです

レーザーの場合、治療した血管はやがて消えてしまうので、これが大きく異なる点です。

さらに気になるのは、表皮近くに固まった血管が残った場合、皮膚炎や痒みなどのアレルギー症状を起こす確率が高くなることです。

したがって、グルー治療をおすすめできるのは、太腿などの深い部分にある血管に限られてしまいます。

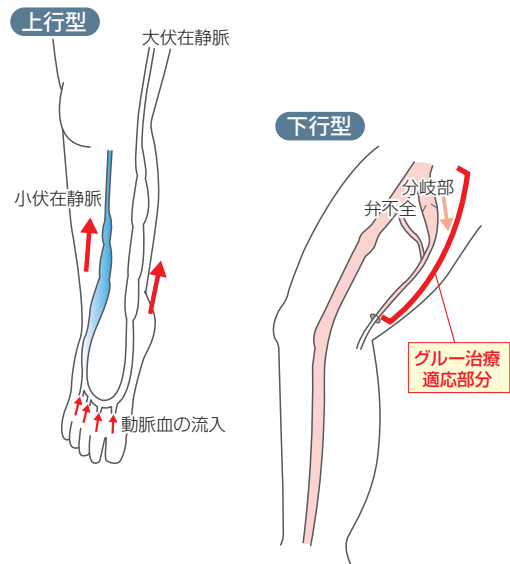
※下行型の特徴的な症状が足の表面の血管がボコボコと隆起すること、上行型の特徴的な症状がむくみやだるさです。詳しくはASHIKA Vol.35をご覧ください。



<https://www.sato-vsc.com/bulletin/pdf/vol35.pdf>

下肢の静脈瘤には静脈にある逆流防止弁が機能しなくなることで起こる「下行型」と、足の甲の抜け道血管が原因で起こる「上行型」がありますが*、グルー治療に適応するのは、下行型の静脈瘤の太腿部深部の血管だけということになります。

グルー治療のもう一つの問題が、広い範囲を治療しようとして多くの薬品を注入すると、他の血管にも薬品が流れるリスクがあることです。最悪の場合、血行障害などが起こることもあるので、術前には治療する部分をしっかり確認することが必要でしょう。



3

グルー治療とレーザー治療を併用すると

ここまでお話したように、グルー治療には良い点も、そうでない点もあります。そこで、従来のレーザー治療と併用するのも一つの選択肢です。

レーザー治療では、表皮近くを含めて全ての血管を治療することができますが、問題になるのは、治療後に弾性ストッキングを履かなければならないこと、血管を熱で照射するために半

年くらい痛みやしびれが残る場合があることです。

しかし、グルー治療を併用すると、レーザーで治療する部分を減らして照射時間を短くすることができます。そうすることで、しびれや痛みなど患者さんの術後の負担を軽減できるのです。

グルー治療が効果的だと思われるのが、蜂窩織炎と呼ばれる皮膚の疾患や、リンパ浮腫の治療です。

蜂窩織炎は皮膚が熱を持って赤く腫れたり、水ぶくれになったりするもので、ひどくなると高い発熱を起こすこともあります。その原因のひとつが抜け道血管なのです。

皮膚の近くにある皮静脈の抜け道血管が開くと、静脈内の圧力が高くなり、血管から水分やリンパがにじみ出して周囲に溜まります。リンパが溜まった皮膚は血行も悪くなり、肌のバリア機能も低下して皮膚炎を起こしやすくなるのです。

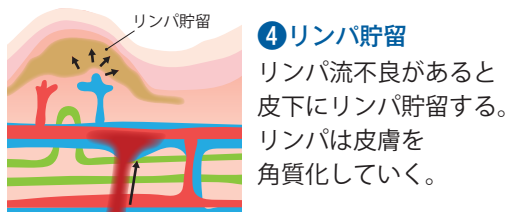
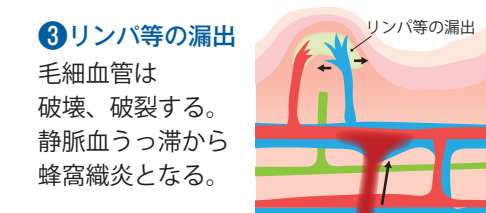
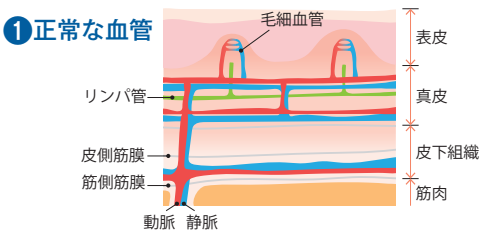
リンパ浮腫も同じように抜け道血管が原因になります。静脈からにじみ出した水分やリンパが溜まり、やがて慢性化すると周囲のリンパ管に回収されなくなり、足がむくんで腫れてしまいます。

リンパ浮腫になると、歩きにくさやだるさが生じて、放置すると腫れがひかなくなると、靴が左右で合わなくなるほどになります。また皮膚が厚く硬くなる象皮症になってしまうこともあります。

これらの原因になる表皮近くの抜け道血管は、非常に細く短いもので、さらに一定の範囲にいくつもあります。足が著しくむくんでいると、抜け道血管はまるで水の中に浮かんだ水草のようになり、レーザーでは治療が困難でした。

しかし、グルー治療なら、細い血管に少量の薬剤を注入することで治療が可能になります。

これまでは対処療法をすることが多かった蜂窩織炎やリンパ浮腫を、原因から治療できる方法として期待できると考えています。



S-K-C

医療法人 医友会

サトウ心臓血管外科クリニック

〒606-8387 京都市左京区法林寺門前町37番

アバンエスバス鴨川1F

TEL 075-762-1082 FAX 075-762-1083

<http://www.sato-vsc.com>

●京都市営地下鉄東西線「三条京阪駅」下車
地下鉄2番出口正面

●京阪電鉄「三条駅」下車9番出口東へ50m

